

2023年(令和5年)11月21日(火曜日)

【第3種郵便物認可】

# 作業見直し 差益率↑

## 川崎陸送 QC発表 検品・人員削減に成功

川崎陸送(樋口恵一社長、東京都港区)は11日、QCサークル(小集団改善活動)の代表発表会を開いた。予選を勝ち抜いた10チームが、現場での事故防止や効率化につながる改善事例を発表。1位の優秀賞には、作業方法の改善とラインの見直しで差益率の向上を達成した葛西流通センター(東京都江戸川区)の「サークルKF4」が輝いた。

会場とリモート中継で開

催した。2位の優良賞に坂戸流通センター(埼玉県坂戸市)の「チームまきのたけ」を、3位の努力賞には通関東京営業所(東京都江戸川区)の「湾岸クラブ」を選出。入賞者にはそれぞれ、樋口社長から賞状が贈られた。

1位のサークルKF4は、輸入食品の検品やラベル貼りなどを行っており、チョコレートのアソート品作業の差益率向上に向けた取り組みを発表した。3種類、計5粒のチョコレートを効率的に選別できる充填トレーを新たに採用。これまで3回だった検品を1回に短縮することに成功した。また、作業ラインの見直しにより、人員を5人から4人に削減、差益率が20・7%アップした。

2位のチームまきのたけは「ライン作業のスムーズ化」がテーマ。作業員個々の動作をビデオ撮影でチェックし、上級者のやり方を共有することで作業効率の統一化を図った。その結果、作業時間短縮と利益の向上につながった。



樋口社長(左)と優秀賞の「サークルKF4」メンバー

3位の湾岸クラブは「通関のリードタイム短縮」をテーマに、「チェックリスト」の導入により、荷主とのやりとりと作業時間の短縮に成功したことを発表した。

樋口氏は「まねすることと聞くことが大事。これが活発化することで作業レベルが上がり、お客さまに均一なサービスを提供できる」と語った。